

② 自己実現に係わる教育

毎年6月「豊橋学校いのちの日」の取り組みとして、腰塚隼人氏を招聘し、「いのちの授業」を行っている。本年度は「気持ちのもちかたが行動に大きくかかわっている」という内容についてお話をいただいた。自分らしく生きることの大切さや、よりよく生きるために自分の気持ちをコントロールする方法などについて体験談や実践をもとに学んだ。毎年同じ講師に話をもらうことで、「ドリームメーカー」などのキーワードが浸透し、子どもの自己実現にかかわる意識が高まっている。

③ 小中一貫に係わる教育

10月に行われる高豊中の合唱コンクールに、中学校区3小学校の6年生が参加した。中学生の迫力のある歌声や、学級が心一つにして合唱に取り組む姿勢に、6年生は自分の目標とする姿を具体的に目にすることができた。また、全校で「聴く力」を基礎力のひとつととらえ、「うさ耳タイム」を設けた。友だちの意見に耳を傾ける姿勢を大切にし、授業の基盤作りを行った。

④ 他者とかかわり合いながら問題解決にいたる学習

思考力・実践力を育成するために、授業においては「出会い」「一人学び」「学び合い」「ふりかえり」の展開を大切にし、問題解決的な学習ができるように努めた。「出会い」では個の中に学習問題が成立するような教材との出会わせ方を工夫し、「一人学び」では児童との対話や朱書きを通して一人一人が自分の考えをもつように支援をした。「学び合い」では、友だちの考えを聴き、自分の考えと照らし合わせながら考えが深まるようにした。このことにより、友だちの意見をもとに自分の考えを見直し、より高める力が育ちつつある。



① 仲よし班活動



② 腰塚勇人氏によるいのちの授業



③ 中学校合唱コンクール参加



④ 問題解決的な学習の実践

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(協働・自己実現・小中一貫・問題解決的な学習)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「いのちの授業」「5つの誓い」腰塚隼人
腰塚隼人オフィシャルサイト

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

特別活動において、縦割り班活動を毎週水曜日に行い、自ら考え、実践する場を設けている。高学年のリーダーシップや自主性、協調性を育てる場としている。

毎年６月に同じ講師による「いのちの授業」「きもちの授業」を行い、自己肯定感の高まりや自己実現に向けて見直す場を設けている。

「うさ耳タイム」を週１日朝の時間に行い、聴く力を育て授業の基盤作りをしている。

各教科・領域では問題解決学習を積極的に取り入れている。学習の過程においては「一人学び」と「学び合い」の場を設定し、調べ学習や自らの経験をもとに自分の考えをもつことや、互いの考えを出し合い、比較したり、認め合ったりする中で考えを深められるような授業を工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

特別活動においては、年間計画や週時間割の中に活動を組み込み、定期的・継続的に取り組んでいる。教科・領域の学習指導にあたっては、学年会・教科部会・研究３部会を組織し、学び合いの深まる学習指導につながるように教材研究をしたり授業案を検討したりしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童・教職員・保護者の学校評価アンケートや学力学習状況調査の質問紙をもとに評価を行っている。「友だちの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の割合が高くなり、活動を通して友だちの意見をもとに自分の考えを見直しより高めることができるようになってきていることがわかった。また、自分の考えを発表したり、友だちの意見を受け入れたりする姿勢もできつつある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度は豊橋市教育委員会・豊橋市現職研修委員会主催による研究発表会を行い、豊橋市内外、幼・保・小・中・高の教職員に活動成果を発信した。問題解決学習を中心にした授業公開と研究協議会を行い、今後の活動や授業作りに生かすことができた。また、現研だよりや豊橋市の現職研修で発表することで研究発表会参加者以外にも発信することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特別活動においては「おやじの会」にボランティアについて話をしていただいたり、腰塚勇人氏を毎年招聘し、いのちについて考える機会を設けたりしている。

教科・領域の学習指導では「出前講座」による講師や、地域の方に講師としてお話しをいただいたり、校外学習として工場や地域の商店の見学を行ったりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

市外のユネスコスクールとの交流はないが、中学校区4校で交流の機会をもったり、教職員合同の研修会を行ったりした。毎年行う中学校の合唱コンクールへの参加では、中学生のクラス一丸となって真剣に合唱に取り組む姿勢から、目標とする姿を目の当たりにすることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

未来をたくましく生き抜くために必要な思考力や実践力を育成するために、「一人学び」と「学び合い」を核にした問題解決的な学習に取り組んだ。このことにより、自分の考えをもつとともに、その考えを他者との関わりの中で再考しより深めていく姿勢がみられた。また、中学校区の4校が協働して教育活動に取り組むことで地域や保護者との連携を強くすることができた。

- （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度に取り組んだ①協働に係わる活動②自己実現に係わる教育③小中一貫に係わる教育④他者とかかわり合いながら問題解決にいたる教育については、本校が目標としている「未来をたくましく生き抜く」ための「基礎力・思考力・実践力の育成」につながる取り組みとして成果を上げてきている。そのため、平成30年度も引き続きこの活動を継続していきたい。なお、①協働にかかわる活動については、特別活動の計画を見直し、取り組み方を精選した上でより有効な縦割り班活動を行っていきたい。